



常備艦隊征灣第九回
第十回報告

1541

旗普第一二三三号

常備艦隊征湾第九回報告

明治廿八年八月七日左ノ電報ヲ受領ス

訓令

一本島南岬燈台看守ノ外國人ヲ清國厦門ニ送還セント欲ス
二貴官ハ右送還ノ為ノ麾下軍艦一隻ヲ南岬ニ派遣スヘシ

明治廿八年八月七日

台湾總督子爵樺山資紀

常備艦隊司令長官有地呂之允殿

依テ澎湖島ニ碇泊中ナル秋津洲艦長江左ノ訓令ヲ典フ

旗令第四十一号

訓令

一本官ハ本日台湾總督ヨリ電報ヲ以テ本島南岬燈台看守ノ外

1542

國人ヲ清國廈門ニ送還スル爲ノ麾下軍艦一隻ヲ南岬ニ派遣
スヘキノ訓令ヲ受ケタリ

ニ依テ貴官ハ天候ヲ見計ラヒ軍艦秋津洲澎湖島嶺備ノ任務ヲ
中止シ此任務ニ従事スヘシ

明治二十八年八月七日

基隆港

常備艦隊司令長官有地品之允

秋津洲艦長上村彦之助殿

右外國人送還ノコトニ関シテハ台湾總督府ヨリ松本海軍大尉ヲ
以テ内訓ノ次第モアリシニ依リ別ニ内訓及關係書類ヲ附シ澎湖
島ニ回航セシメントスル河野浦丸ヲシテ秋津洲艦長ニ傳ヘシノ
又河野浦丸ハ澎湖島ニ於テ飲用水ヲ供給シ尽セハ台海訓第十
三号ノ訓令ニ基キバラツク材料ヲ搭載シテ基隆ニ回航スヘキ旨

訓令ス

同日左ノ訓令ヲ受領ス

台海訓第十四号

訓令

明治廿八年八月六日於台北府

貴官ハ淡水港碇泊ノ麾下軍艦々長ヲシテ同地支廳長大久保利
武ト協議シ凡ソ左ニ列記スル條項ニ基キ專ラ台湾以北ノ狀況
ヲ偵察セシムベシ

一 番山中港後港彰化台湾等ノ各地ニ於ケル民情

二 右各地ニ於ケル兵數營名及沿道駐在ノ兵數武器ノ種類及其

情況

三 右各地方ノ總統官統領其他勢力アル文武官ノ姓名

四 鹿港以北ノ沿岸ニ臨時築造ノ砲台アラハ其數及備砲ノ數守
備ノ情況

五鹿港以北沿岸ノ港湾及台湾ヨリ各地ニ通スル道路ノ行情

但船軸ノ寄港シ得ル港湾車輛ノ通シ得ル道路駄馬ノ通

シ得ル道路ノ區分ヲ要ス

六鹿港以北ノ諸港ヨリ支那本部トノ交通及軍隊軍需品ノ輸送

等ニ関スル景況

七水雷地雷ノ布設シアル場所及其方法

台湾總督子爵樺山資紀

常備艦隊司令長官有地品之允殿

依テ即日之ヲ在淡水大島艦長へ傳訓ス

此日左ノ命令ヲ受領ス

台海命第二十二号

命令 明治廿八年八月七日於台北府

一 情報ニ依レハ敵ノ主力ハ尖筆山附近ニ散在シテ我レニ抗セ
ントスルモノ、如シ

二 近衛師團ノ主力ハ八月八日新竹ヲ突シ沿途ノ土匪ヲ討攘シ
テ香山ニ進ミ同月九日尖筆山ヲ攻撃シテ中港ヲ占領セント
ス

三 貴官ハ麾下ノ艦隊ヲ卒ヒ香山港附近ニ回航シ沿岸ニ突出セ
ル尖筆山岬ニ於テ明カニ彼我ノ軍隊ヲ確認セハ敵ヲ砲撃シ
テ我陸軍ニ應接スヘシ

台湾総督子爵樺山資紀

常備艦隊司令長官有地品之允殿

茲ニ於テ直ニ艦隊(吉野浪速八重山)ハ出航準備ヲ整ヒ即日午後八

時先ツ吉野浪速ヲ率ヒテ(八重山ハ総督府ノ指令ヲ請フコトアル
カ故ニ諛指令ヲ以テ後ヨリ来ルヘキ旨ヲ訓令ス)杣山港ニ向ヒ基
隆港ヲ発ス

八月八日拂曉ホウン、正河沖ニ到レハ陸上ニ砲戦アリ且ツ山間ノ
諸部落ヨリ火ノ盛シニ起ルヲ認ム午前七時杣山港ニ達セシニ敵
兵海岸ニ沿フテ南ニ逃ル、アリ吉野ヨリ三竹砲發ヲ放テ陸
軍ニ聲援ス敵兵走ツテ山林及附近ノ村落ニ入ル依テ吉野ヨリ端
艇ニ隻ヲ軍裝シテ海岸ノ偵察ヲ為サシム而シテ吉野ハ杣山ニ碇
泊シ浪速ヲシテ中港ニ行キ敵情ヲ偵察セシム

午前九時頃ヨリ我陸軍兵日章旗ヲ翻シテ杣山附近ノ山上ニ休憩
スルヲ見ル

正午浪速杣山ニ帰リ碇泊ス其報告ニ曰ク

中港沿岸ニハ敵兵ヲ見ス然レトモ川ノ左岸山上ニ哨兵ヲ配備

シタル如ク土人ノ散在スルヲ見ル漁夫ノ言ニ依レハ二三日前
南ヨリ千五百許リノ兵中港附近ニ来リタリ川口ヨリ一里半許
リ奥「ヤバロウ」ト云フ所ニ三千許リノ兵アリト云フ尖峯山
手ニニケ所兵員ノ集合スルヲ見ルト

吉野ヨリ偵察ニ出シタルガツタ山ニ隻モ帰リ此任務ニ従事シタ
ル曹長大尉ノ報告セル要領左ノ如シ

我陸軍ハ香山港ノ南ナル谷合迄ヲ占領シ此方面ノ中隊長ニ面
話シタルニ陸軍ハ本日ノ第一期運動ヲ終リタルニ依リ休憩ノ
後第二期ノ運動ヲ実行スル積リナリト土人ノ言ニ依ルニ我陸
軍ノ占領点ヲ距ル僅カニ数下ノ南ニアル村落ニハ敵兵五六百
アリト又約一千ノ敵兵ハ今朝「ジャンク」ニテ南方ヨリ来リシ
ト
攀動怪シトノ嫌疑ニ依リ一支那人ヲ連レ来リシガ取調ノ末格別

疑ヲ存スルナキヲ以テ放還ス放還ノ為ノ出シタル端艇ニ向ツテ
 陸上ヨリ突然銃砲ヲ放ツモノアリ(吉野ノ錨地ヨリ約四百五百
 米突ノ海岸ニ瀕セル山上ヨリ)初メテ近傍ニ敵ノ潜ノルアルヲ知
 リ吉野ヨリ十二珊瑚砲發射ヲ放テテ敵ヲ走ラス
 此日尖筆山山手兵營ノ方向ニ出汲スル敵群ニ向ツテ吉野ヨリ拾
 二珊瑚砲及浪速ヨリ十五珊瑚砲發射ヲ放ツト虽モ距離遠大ナルカ故
 ニ彈着判然セサルモノアリシ
 八月九日陸上戦闘開始ノ模様詳カナラサルモ山上二三ノ銃火ヲ
 認メタルヲ以テ午前五時三十分奮山港接錨ニ艦中港沖ニ向フ途
 中尖筆山々手ノ方向ニ時々砲火ヲ見ル又所々部落ヨリ火卷ノ大
 ニ揚ルヲ見ル
 午前七時中港沖ニ碇泊陸上ノ状況ヲ遠望スルニ中港ノ東ニ於テ
 長ク南北ニ跨レル卑キ山脉ヲ超ヘテ逃ル、敵兵ノ多数アリ又海

岸ニ近ク(中港ノ北方)群レル敵兵ヲ認ム依テ吉野ヨリ十二砲數
發ヲ放テ之ヲ走ラス中港河口附近ニモ多少ノ支那人ヲ見タレ
果シテ敵兵ナルヤ否ヲ確知シ難シ是等ハ砲聲ヲ聞テ皆其影ヲ
隠セリ

午後二時我陸軍ノ歩騎兵中港河口附近迄進ミ來ルヲ認ム

此日偏西ノ風強クシテ端艇ヲ卸ス能ハス

八月十日朝來風少シクカヲ減シタルニ依リ陸上ニ連絡ヲ試
ミシ
為ノ端艇ヲ卸シ參謀官ヲ遣ハセシニ海岸ノ逆浪強キカ為ノ
近付ヲ得スシテ帰ル

此日モ午前九時過ヨリ西南方ノ風強ク夜ニ入ツテ尚ホ止マズ

軍艦浪速ヲ基隆ニ帰ラシム蓋シ吉野ハ尚ホ一日間中港附近ニ
止メ陸上ノ狀況ヲ確カノ互ツ為シ得ベクンバ陸軍ト交通シタル
後
基隆ニ帰ラント欲セシナリ

八月十一日南西ノ風吹止マズ日出頃暫時ハ著シクカヲ減シタレ
 トモ須臾ニシテ固有ノモンスウンニ獲セントスルヲ以テ陸上ニ
 交通スルノ念ヲ断テ午前五時三十分中港沖抜錨後海中ニ回航ス
 途中沿岸ニハ敵兵ヲ見ス進シテ後滝沖ニ至レバ背後高地ニ於テ
 著レキ一大樹ノ下ニ設ケタル仮兵營ニ多數ノ敵兵アルヲ認め(仮
 兵營ノ數ハ嚮キニ松島ニテ偵察シタルトキヨリモ多キヲ加フ拾
 五珊砲數發ヲ七十七八百米突ノ距離ニ於テ)放テシニ附近數十米
 突乃至百米突餘ノ所ニ彈着シテ悉ク炸裂セリ彼レモ野砲ヲ以テ
 應シタルが如シト虽モ距離遠大ニ過ルカ故ニ彈着点分明ナラズ
 而シテ多數ノ敵兵ハ假兵舎ノ内ヨリ背後ニ避クルモノ、如ク見
 ヘタリ

吉野ハ到底右距離以内ニ近ツク能ハズシテ此遠距離ニアツテ命
 中セシムル迄ニハ多數ノ彈丸ヲ費サハルヲ得サルヲ以テ發砲ヲ

トス

止ノ基隆港ニ向ツテ航進ス
午後四時基隆港ニ碇泊ス時ニ在港ノ麾下艦船ハ浪速ハ重山工作
船元山丸水雷艦ニ隻及海軍運送船土洋丸ナリ
右報告矣也

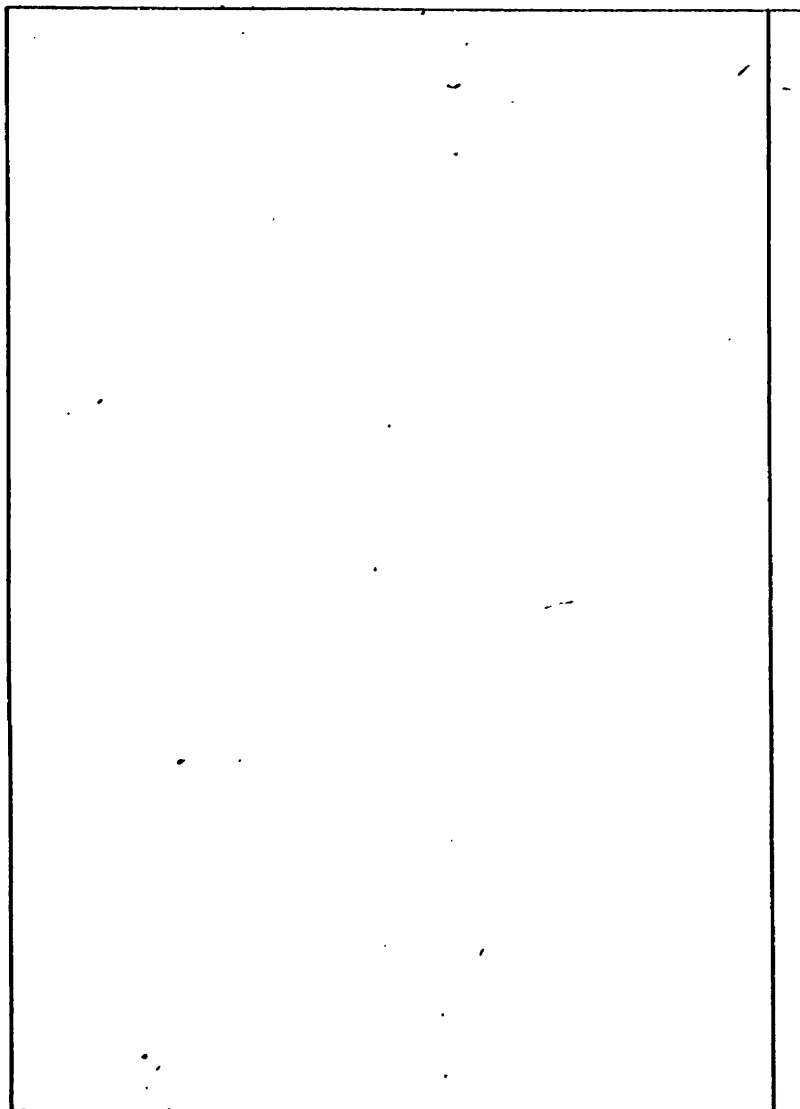
明治二十八年八月十一日

基隆港

常備艦隊司令長官有地呂之丸

台湾總督子爵樺山資紀殿

1552



1553

旗普第一二五八號

常備艦隊任灣第十回報告

明治二十八年八月十一日午後軍艦八重山機関部修理ノ為メ長崎
ハ向々基隆出港

八月十二日午前軍艦浪速下士以下用竈及汽罐修理ノ為メ長崎、
向々基隆出港ス

軍艦浪速及八重山修理ノ件ニ関シテハ東郷常備艦隊司令官ニ訓
令シテ鎮守府司令長官ト協議速成セシムルコトヲ努メシム

本艦隊附屬ニシテ基隆着ノ上ハ台湾總督府ノ指揮下ニ入ラシメ
ラレタル軍艦海門入港セリ

此日午後左ノ電報ヲ受領ス

師團ノ主力ハ米ル十三日頃ヨリ中港ヲ登シ苗栗附近ノ土匪ヲ
進撃セントス情報ニ依レハ土匪ノ大部ハ大甲及苗栗方面ニア

ルモノ、如シ由テ貴官ハ吉野ヲ卒ヒ天候ノ許ス限り後漕ヨリ
以南牛馬頭不明附近ノ沿岸ヲ巡航シ若シ其沿岸ニ於テ敵兵ヲ
確認セハ之ヲ砲撃セラレシコトヲ望ム

二十八年八月十二日

樺山基隆總督

有地常備艦隊司令長官殿

吉野ハ此時石炭積込中ナリシカ中止シテ出航ノ準備ヲ整ヒ十
三日未明基隆拔錨後漕方面ニ向ツ同日午後一時頃ヨリ後漕附近
ノ山上ニ砲火ヲ認ム而テ近クニ隨ヒ我陸軍ノ敵營ヲ砲撃スルモ
ハナルヲ知ル

午後一時五十分後漕沖ニ碇泊ス

陸上ノ戦閉ハ敵内方ニ在リテ味方海岸ニ近キ方ニ在ルカ故ニ海
上ヨリノ應援ニ便ナラス

午後二時三十分後滝背後ノ山上ニ於ケル敵ノ假兵營我陸軍ノ占領スル所トナルヲ認ム

此夜後滝沖ニ滯泊ス

八月十四日早朝ヨリ我陸軍ノ苗栗方向ニ進ムヲ見ル吉野ハ午前七時三十分後滝沖抜錨先ツ通宵ニ到リ陸上ヲ偵察セシムル為ノ端艇ヲ海岸ニ遣ル(岩本海軍大尉之ニ兼組)然ルニ通宵ノ善民ヲ代表スル村老数輩旗ヲ立テ海岸ニ出テ、迎接ス偵察艇ハ彼等ヲ伴フテ帰ル土人ノ主立タルモノ二三名ヲ艦ニ上ラシメ問答ヲ試ムルニ彼等ノ答ハ要領ヲ得サル多シ答語中左ノ如キコトアリ

昨日後滝附近ニ於テ戦爭アリシコトヲ知レリ

賊將吳統領(吳末興?)ハ四更ニ三百ノ兵ヲ以テ内山下ニ走り去レリ

(苗栗ニ至ル三十五清里)

通霄ヨリ

後港ニ至ル三十清里

台中ニ至ル八十清里

大安港及大甲ニ至ル各二十五清里

道路ハ山後ヲ通スルモノト海岸路トアレトモ概シテ海岸路ハ

悪シ而シテ山路ハ善良ニシテ車ヲ通シ難キモ馬ヲ通スヘシ

通霄村全部落ヲ通計シテ戸數一千人口七千餘アリ耕農ヲ以テ

業トス其内通霄街ノ商賈三十戸

此村清兵ノ駐屯シタルコトナシ

彰化及台湾以北ノ兵備等ニ関シ問フ所アリシモ要領ヲ得ス

通霄附近敵ヲキヲ知ルニ依リ大安港ニ回航シ午後三時十八分同

港沖ニ投錨シ直々ニ端艇ヲ卸シ陸上ヲ偵察セシム(八代大尉兼艇

ス)談艇大安河口ニ入り將ニ上陸セントスルヤ拾五名餘ノ敵兵埠

頭ニ在テ邀撃セントスルニ依リ艇ハ河ヲ出テ、銃火ヲ開ク本艦

ニ於テモ之ヲ知ルカ故ニ取敢ス三行速射砲ヲ以テ敵ヲ撃テ偵察
 艇ヲ招還ス午后四時十五分偵察艇帰艦シ八代大尉ノ報告ニ依リ
 敵ノ舉動及敵ノ屯集スル地点ヲ詳カニシクルヲ以テ拾二珊砲數
 發ヲ放ツテ敵ヲ撃ツ敵兵ハ大甲ノ方向ニ逃走スルヲ見ル
 午後五時端艇二隻ヲ派遣シ敵ノ舍營ヲ焼拂ハシム此時八代大尉
 土人ニ就テ得タル情報ノ概略左ノ如シ
 大安ニハ十日程以前台南ヨリ来レル二百ノ兵駐在シテ壯丁ニ
 強ルニ兵役ニ就カンヲ以テシ從ハサルモノハ誅戮スベシト
 云ヘリ
 大甲ニモ兵アリ近來交通セサルヲ以テ其情況ヲ詳ニセス
 大甲ハ大安ヨリ八清里彰化ニハ五拾清里アリ彰化ニ通スルノ
 道路ハ海岸ト内地トニアリ海岸ノ方善良ニシテ車ヲ通スヘシ
 大安ノ人家凡ソ一百此日ノ砲撃ニ依リ負傷シタルモノ唯一名

ノミ(翌日吉野ニテ施療セリ)
 此日装填シヤリシ十二瓏彈一発ヲ大甲街ノ南方ナル丘上ニ向
 ヲテ放ケシニ之ニ怖レテ逃走シタル敵兵多カリシト云フ
 八月十五日大甲街ノ主立タルモノ七人相携テ来檻シテ帰順ノ意
 ヲ表シ迅ニ兵ヲ派シテ保護セラレシト云フ
 昨夜彰化ノ方向ニ逃走セリト
 聖軍ノ到ル日アラサルヘキヲ以テ恭順ノ実ヲ表スヘキ旨ヲ諭示
 シテ去ラシム
 此日大甲街ノ人民鶏豕野菜類ヲ呈セシコトヲ請ヒ之ヲ持来ル依
 テ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買収スル後二日間生糧品ヲ持来レルヲ
 以テ買上ケタリ
 八月十六日生糧品ヲ持来レル土人自瑠ナルモノニ片假名文ヲ認

此日福井丸来ル生糧品及郵便物ヲ受取りタル後澎湖島ニ向ハシ
 ム
 任候隊ニ達シタルヲ知ル
 此日福井丸来ル生糧品及郵便物ヲ受取りタル後澎湖島ニ向ハシ
 ム
 八月十七日午後一時四十分迄衛兵約一小隊大甲ノ方ヨリ大安港
 ニ進ムヲ認ノ端倪ヲ卸シ(八代大尉來候)大安港ニ赴キ情報ヲ交換
 セシム
 八代大尉報告ノ要ニ曰ク
 陸上ニ來レル兵ノ隊長ハ迄衛步兵第一聯隊陸軍歩兵中尉山下
 五三郎
 迄衛南進部隊ハ内中外三路ノ内内路ハ山根枝隊外路ハ川村枝
 隊ノ進路ニシテ山根枝隊ノ進退ハ知ラサルモ川村枝隊ハ通寶
 迄進ミ其前進部隊ハ宛里ニアリ

中尉ノ率ユルハ作候隊ニシテ一昨日宛里ヲ発シ昨日艦隊参謀
ヨリノ情報ニ接シ大甲附近ヲ経テ大安港ニ来レリ而シテ之ヨ
リ宛里ニ帰向セントスト

此日午後三時五分軍艦西京丸来着ス陸軍南進ニ関スル情報(総督
府發ニ接ス)

八月十八日及十九日陸軍ノ南進スルヲ見ズ

八月十三日ヨリ十八日ニ至ルノ間ハ微風軟風ノミニシテ海上頗
ル平穩ナリシガ十九日ヨリ北風強吹シ海岸ノ波浪捲躍シテ陸上
トノ交通出来難キニ至レリ依テ尚ホ陸軍ノ前進ヲ認ムル迄(廿三
日頃迄)西京丸ニ大安港沖ニ止ルヘキ旨ヲ訓令シ廿日午前吉野ヲ
率ヒテ大安港沖ヲ発シ即日冷水港外ニ碇泊セリ(冷水港ニハ麾下
軍艦大島及水雷艇五隻在泊セリ)

吉野ハ是ヨリ基隆ニ回航シテ石炭ノ補充ヲ要ス

右報告矣也

明治廿八年八月廿一日

淡水港

常備艦隊司令長官有地品之允

臺灣總督子爵樺山資紀殿

追テ左ノ報告ヲ添附ス

- 一 秋津洲艦長ノ澎湖島現状報告 秋秘第三〇號
- 一 ハラツクノ材料輸送ノ件ニ付土洋凡監督將校ノ機命書

秋秘第三〇號

澎湖島現状報告

1562

一 警備上何等ノ異情ナシ外國軍艦及商船等一切入港セス
 一 出入ノ支那船ヲ臨檢スルモ更ニ異情ナシ
 一 全島ノ人氣ハ先ツ平穩ナレド猶半信半疑ノ中ニアリテ機會ヲ
 得レハ反抗セントスルノ模様アルヲ台湾島ニ於ケルカ如シ
 一 當港ニハコレヲ病患者ナシハ重山ノ卒貳名該病ニ罹リ入院セ
 シ者一名ハ死亡シ一名ハ殆ント全快不日退院ノ筈ナリ
 一 本艦及布設部士卒ハ共ニ至極健全ナリ守備隊ニハコレヲ病ナ
 ケレド多少脚氣病ニ罹ルモノアリ
 一 暑氣ハ基隆ヨリモ遙ニ低ク雨ナケレド毎日清涼ナル南微風ア
 リテ冬熱ニ苦ムヲ稍ウナシ
 一 生糧品ハ牛肉鶏肉鷄卵魚肉野菜等アリ供給ニ乏シカラス
 一 官内島司ノ盡力ニヨリ敵地探索ノ為ノ使用セシ陳論及陳茂記
 ノ兩人ハ去月三十日夜半確カニ彰化縣鹿港ヘ向ケ出帆セリ同

人等ハ出發ニ際シ家ニ歸ラス海岸ニ親族某ヲ呼ヒ左ノ一言ヲ
 枕シテ去レリト云フ即チ
 商用ニテ南方ニ行ク二十日比ニハ歸島スヘシ病氣中ノ母ヲ大
 切ニ頼ムトノ一言ヲ殘スニ止リ其實ヲ吐カサルヲ確實ナリ
 支那人ノ事ナレハ確信スルヲ難シト雖本人等現今ノ位置一族
 四十餘名ニシテ母妻一男一女アリ白沙島ニテノ名望アル豪商
 ト云フ及發途前後ノ決心等ニ據リ察スルキハ今回ノ事件ハ充
 分望アルモノ、如シ不日兩人ノ中一人先ツ歸島ノ答ニ付領ヲ
 延ヘテ日ニ謀報ノ至ルヲ待テリ他ニハ派遣スベキ適當ノ人物
 今ニ見當ラス故ニ目今唯隙ノ一行ニ望ヲ屬スルノミ
 一澳翁島ノ西海岸ヲウカウ湾ニ小蒸氣船沈没シアリ云々傳聞セ
 ルニヨリ昨日宮内島司等ト實地ニ就キ調査セシニ果シテウ
 カウ湾陸岸ヨリ凡ソ百間深サ四尋許ノ処ニ煙筒四尺許ヲ露出

スル沈没船ヲ発見シタルニ付直ニ村長ヲ呼出シテ取調ヲナシ
タレ氏充分ノ事情不分明唯馬公落城ノ夜四五名ノ官人本船ニ
乗組ミ上陸シ其櫓ニホヲ切りテ沈没セシメタル後支那船ニ乗
組ミ何レヘカ逃ケ去レリ云々ト潜水器ヲ以テ檢スルニ船ノ長
サ八九ソニ十呎許ニシテ其後部ハ干潮ノ際水面下三尺許ノ処
ニ在リ引揚方ハ容易ナルヘク不日島司ニ於テ着岸スル豫定ナ
リ

右不取敢報告は矣也

明治廿八年八月七日

澎湖島馬公湾

秋津洲艦長上村彦之丞

常備艦隊司令長官有地品之允殿

土洋第九〇号ノ三

バラツク材料輸送方之件ニ付復命

別紙貳通ノ御訓令ニ基キ澎湖島ニ於ケルバラツク材料輸送方取
計ラハント致シ候處全地ノバラツク材料兵軍需品等ハ悉皆陸軍
運送船ハ倉丸ニ搭載ナシ得ルニ依リ本船ニ搭載スベキ分ハ無之
矣趣澎湖島々廳ヨリ通知有之矣ニ付バラツク材料ハ搭載致サズ
シテ当港へ回航仕矣条嶋廳ヨリノ通知書相添へ此段復命仕矣也

廿八年八月十一日

土洋九監督海軍大尉岡田平次

有地常備艦隊司令長官殿

1566

嵯峨ヨリノ通知書ハ省ク

13
ス
1567

機秘

拜啓

第一回報告書

南部偵察之儀ニ付去ル七月三十一日平山艦長ハ稟書致タル一人
 陳茂記本日帰嶋復命ニ曰ク彼地ハ劉永福ノ布命嚴密ニシテ書類
 等ヲ携フル能ハズ故ニ陳論申聞ニ五六日ノ内ニ台湾迄偵察ヲ遂
 カ帰島復命可致及聞不取敢台南安平迄ノ実況ヲ復命スベシト別
 紙之通り復命致及以陳茂記ハ興業且台湾地理ヲ熟知セザル者故
 言語ハ勿論地名等ニ至リ不明不勘就テハ陳論帰島迄ハ強ク宋統ノ方
 針無覺束存カ聞來ル廿日頃迄ニハ必ラ不陳論偵察ヲ遂カ帰嶋可
 致事ト存カ依之不取敢此段申進及也

明治廿八年八月十三日

澎湖嶋々司宮内盛高

參謀長上村彦之丞殿

台南地方之偵察ニ関スル報告

陳論陳茂記之兩人ハ当處ノ命ヲ奉ジ本年七月三十一日夜半澳船ヲ雇ヒ白沙岬ヲ出帆シ本月三日午後十二時頃安平港ニ達シ直ニ上陸シテ城外新街ニ在ル彼等知人之開店セル怡美ト号スル商店ニ投宿シ陳茂記ヲ同店ニ止メ陳論一人獨行シテ台南旗後打狗鳳山東港等南部ノ地方ヲ偵察シ同七日安平ニ帰着シ船便ヲ覓メ同十日陳茂記ヲシテ帰澎報告セシメ同日陳論ハ再ヒ台湾彰化地方ニ向ケ出發シ鹿港ヨリ乗船シ同十七日頃圓澎復命スル等ニ有之次然ルニ該地ニシテノ查察甚ク嚴密ナルカ為メ止ヲ得ス報告書ヲ持參セシムル能ハス且ツ陳茂記ハ元來文字ナキ者ナルヲ以

予營名及ヒ姓名等明白ナラサルノミナラス又詳細ナル事實ヲ知
 ル能ハサルモ報告スル所下件ノ如クニ御堅決
 一 台南一帯ノ地方ハ土匪盜ノ横行スルカ為メ民心恟々トシテ
 戦乱ノ來ルヲ怖レテ商農共ニ其業ニ安ニスル能ハズ己ニ台南
 府東門外ニ三十里ノ江山脚ナル蕃藪嶽地方ニテハ土匪蜂起シ
 テ富家ヲ掠奪シ遠ニ我軍ニ應セント声言セシニ由リ劉永福ハ
 是カ為メニ進士許南英ナル者ヲシテ一千五百ノ兵ヲ率ヒテ鎮
 定ニ向ハシメタリ
 二 南部一帯ノ地方ニ駐屯セル兵ハ合計四萬餘ニシテ其内土勇一
 萬餘ニテ他ハ廣東廣西並ニ廣東汕頭地方ノ各家族ヨリ編成セ
 シ兵ニシテ淮勇モ又數千人アリ而シテ棧前ヨリ駐在セル兵ハ
 過半本國ニ逃ケ歸リ媾和後直チニ渡台セル者ハ土地ノ事情ニ
 熟セズ且ツ支那兵ニ普通ナル濫買等ヲ行フ為メ人民ト親和セ

ス兵氣モ又振ハスシテ大ニ我兵ノ進攻ヲ恐怖シ居レリ而シテ
 軍器ハ旧時軍裝局ニテ買入レシ外國製ナリ
 三砲名ハ旗後港口ニ大小二個處アリ大ハ砲四門ニ兵五百名アリ
 小ハ砲三門ニ兵三百名アリ安平ニハ大砲名一個處小砲名四個
 處アリ大ニハ砲六門兵八百名アリ小ニハ各處共ニ砲三門ニ兵
 二百名ツツアリ
 四清國文武官ハ劉永福ヲ除クン外安徽省出身ノ終兵萬國本ヲ初
 メ皆本國ニ退去シ只安平縣ニ廣西人ノ浪ナル者アルノミニテ
 勢カアル富豪家ハ旗後ニ陳阿滿陳烏豆台南府城内ニハ蔡自察
 陳光乾及心兵ナル者アリ而シテ進士陳望増ナル者最モ勢カア
 リ
 五安平台南打狗鳳山東港間ニ通スル道路ハ幅大凡一丈余ニテ車
 輜ヲ通行スルニ障害ナク土質沙地ニシテ渚水アラズ小河ニハ

橋ナキモ現今降雨ナキ為ノ流水ナクシテ沙磧ノミナリ只出水ノ時ニハ徒涉甚カ困難ナリ

六南部諸港ト清國トノ交通ハ現今汽船ノ往來スル者ナク支那船モ又戰爭ノ為ノ商業ノ不景氣及ヒ海上ニ於テ我カ軍艦ニテ搜索ヲ行フヲ怕ル、等ニテ平時ニ比スレバ甚カ僅少ニテ軍隊軍需品ノ輸入ハ断ハテ莫シ

惟々前日劉永福カ英國軍艦ニ乞フテ廣東ヨリ庫銀ヲ運輸セシト為セシモ事未ダ行ハレズ

七安平港口旗後港口ニハ水雷ヲ布設セリ地雷ハ一帯ノ沿岸各所ノ沙地ニ埋設シアリ

八安平打狗ニ居留セル外國人ハ我兵ノ台南ニ進ムヲ聞キ皆商店ヲ支那ノ番頭ニ依託シテ厦門ニ引揚ガヘ人モ在留スルモノナク唯安平港ニ英國軍艦一隻アルノミナリ

答 問 答 問 答 問 答 問 答 問 答

母甘塚(年齢六十八年)其妻弟子供一又アリ

弟ノ名ハ

基(三十七年)

女ノ兄弟ナキヤ

ナシ

妻ノ名ハ

配涼(三十三年)

子供ハ成人アリヤ

男児一人アリ樽ト云ヒ年十五

汝ハ何ノ為ノ茲ニ留置セラレ居リシヤ

戦争ノ為メニ一時暇方ニ逃ケ居リ夫ヨリ暫時經タル後

物呂運搬ノ為ノ帰炭シタル所日本兵来リ合セ居リ捕ハ

レ来リタル次第ナリ

問	答	問	答	問	答	問	答
	汝ハ茲ニ捕ハレタルハ今汝ノ申立タル事柄ト相違シ居ルノミナラス汝ノ犯罪ハ事實明瞭シ居リ如何		小銃ヲ賣リシト共ニ台湾ニ紙面往復シタル件ニ依リ捕ハレタリ		汝ノ一族ハ何十位アルカ		男女共ニ四十人餘アリ
			五軒ニナリ居レリ		汝ハ是ヨリ台湾共ニ台南ニ渡リテ用事ヲ命スルコアリ		受負フヤ否
			一ニケ月位ナレバ畏リマシクガ永年月ナレバ出来ズ		僅カ往復テ十余日ノコニテ重大且秘密ノコナリ如何		参リマス

ウ
ス

問 然シ台湾行ヲ命シタル処任務ヲ尽シ帰島シタル片ハ今日迄ノ犯罪ハ全免スルハ勿論果シテ任務ヲ尽シテ帰ルヤ否	答 御命令ニ従ヒマス 任務ノ事項一々申聞ルカ果シテ受員フマ 了承	問 台湾ヨリ始ノ台南安平太沽宝山其他密行シ砲台兵管共ニ兵数及道路難易水雷地雷ノ布設ヲ偵察シ復命スル出来得ルヤ	答 出来マス 此事柄頗ル重大且ツ秘密ノ事ニシテ此任務ヲ遂ケタル以上ハ是迄ノ犯罪ヲ全免シ且ツ台湾ヘ対シ商業上ノ何等ハ能ク保護ヲ興エシ
---	---	---	---

答	問	答	問	答	問	答	問
了義	若シ萬一偽リノ復命ヲ為シタル以上ハ汝ノ一族ヲ亡ホス如何ニ	眞事實ヲ以テ復命スル心得デアル	然ル如何ナル方法ヲ以テ台湾ニ渡リ亦如何ナル方法以テ飯島ニ討取ルヤ	安平太沽ニ商業ノ得意先キモアル故商業上ノ用ナリトシテ台湾ニ渡リ事情ヲ捜ラン	刺下台湾ニ於テモ頗ル警戒嚴重ニシテ馬公ヨリ渡リシモノ挿ハレタルモノモアリ尚ホ夫レニテモ奮發シテ偵察シ来ルヲ出来得ルカ	十年以上モ台湾ニ居リタルヲアリ知己モ澤山アリ必ズ出来ルヲト信ズ	然ラバ他ニ罪(陳茂記陳茂金)モ汝ト一緒ニ遣ス如何

問	問	問	問	問
<p>諛ニ罪ハ本島ノ農夫ニシテ台湾ニ居リシトナケレバ却テ自分ノミノ方都合宜シキ方ト思フ</p> <p>其内一罪ヲ連レ参リ台湾ヨリ台南安平迄ノ事情ヲ搜リ速ニ同人ヲシテ島廳迄復命スルト出来得ルカ</p> <p>陳茂金ハ老人故陳茂記ヲ同伴セン</p>	<p>然ラハ汝ハ台湾ヨリ台南迄ノ事情ヲ搜リ精數分ル様ニ書面ニ認メ速ニ陳茂記ヲシテ島廳ニ提出シ尚ホ汝ハ其他共詳況ヲ搜リ報告セヨ</p> <p>了承</p>	<p>然ラハ今ヨリ仕度シテ明天出帆スルト出来得ル乎出来マス</p>	<p>陳茂金ハ汝ノ任務ヲ遂ケ来ル迄留置ノミナラス若シ任務ヲ果サ、ルニ於テハ先刺モ申聞ケタル通り汝ノ一族</p>	

ヲヒボス	了承	問 答	尚ホ一ニハ申聞ケ置クガ愈々汝が偵察ノ事項當ヲ得タル節ハ台湾鎮定ノ後々先キニモ申聞ノ通り犯罪ハ全免スルノミナラス台湾ニ対シ商業上ノ了等ハ充分保護シ遣サン	誠實ニ任務ヲ尽サン	問 答	台湾ヨリ安平迄ノ事情是ヨリ十日位ニテ陳茂記ヲシテ報告スルヲ出来得ルヤ	大抵十日位ニテ出来得ルナラント思フ	問 答	念ノ為メニ汝ノ老母ハ郷老ニ預ケ置キ勿論汝ノ住家并ニ家族ハ充分保護シ置カンニ依リ念トスルニ及バス 老母ハ盲目ナルノミナラス當時病氣ノ為メ卧床シ居ル	問 答
------	----	-----	---	-----------	-----	------------------------------------	-------------------	-----	---	-----

<p>問 三依リ其終ニ為シ置カレンコトヲ望ム 陳茂記ヲシテ諸般準備ヲ為サシノ汝ハ頓テ夫迄茲ニ扣 ヘ居ルベシ</p>	<p>答 了承</p>	<p>問 陳茂記デハ此事柄ハ診合スル丁出来ズ 了承</p>	<p>問 此事柄ニ付キ要スル費用ハ成効迄汝ニ於テ立替置クベ シ</p>	<p>答 了承</p>	<p>右明治廿八年七月廿九日澎湖島廳ニ於テ録取シ通訳官ヲシテ本 人ニ讀聞セタル処其陳述ノ毫モ相違ナキ旨申立タリ依テ本官等 左ニ署名捺印スル者也</p>
---	-------------	-----------------------------------	---	-------------	---

澎湖島々司宮内盛高

立會人

憲兵部長陸軍少尉石丸喜宗

通譯官 尾本壽太郎

秋秘第三一号

澎湖島現状報告

一 間諜者陳論一行中ノ陳茂記去ル十三日坂島復命セリ其始末ハ別紙ニ詳ナリ陳茂記ノ陳述ハ充分ナラザル憾アリ兎角陳論帰島ヒカレバ詳細ナル事實ハ判然セズ報告中蕃茲寮トアルハ蕃

1581

薯寮ノヲニシテ旗後ハ圖ニナシ唯安平ト打狗トノ中間ノ港ナ
リト云フ

一本月九日馬公域砲台内敷設水雷管ニアル戦利品中ノ火薬盜難
ニ罹リタル旨ヲ以テ別紙ノ通報告ヲ得タルニ因リ本艦砲術長
及水雷長ヲシテ猶実地ニ就キ調査セシメタルニ盜賊ノ持出セ
シハ大砲及小銃彈藥ニアラズシテ銅イナマイ止ナリシ而シテ
水雷管火薬庫内ニハ右銅イナマイ止ノ外猶大粒砲火薬及ヒ小
銃彈藥モアリテ當時ハ戦利品トシテ陸軍守備隊ノ保管ニ属ス
レバ銅イナマイ止ノ如キハ甚危険ニ付猶一層嚴重ニ取締ヲ附
スル様宮内島司へ恠議セリ

右ニ付盜賊搜索ノ為ノ本島ハ勿論附近島嶼迄モ島嶼ヨリ人ヲ
派シ嚴重ニ搜索申ナレバ未タ其踪跡ヲ得ズ察スルニ賊ハ船ニ
乗シテ逃走シタルモノ、如シ

一宮内島司ノ計ラヒヲ以テ去月廿五日敗兵四十余人ヲ支那船ニ
 乗セ島廳員上乗陸行ナルモノ一人ヲ附シ厦門ハ送還セシメシ
 ニ本月八日飯島復命セリ右上乗ノ言ニ依レハ同人ハ元來支那
 語ヲ知ラサレバ全ク言語不通ニテ本島ヲ發シテ以來全月廿八
 日厦門ヘ着スル迄ノ間船内ニテ種々困難ヲ極メタルモ全人ハ
 敗兵ニシテ万一抵抗スルアラムニハ切り捨ルノ覚悟ヲ以テ漸
 少敗兵ヲ制シ厦門ヘ着シタリ斯クテ其後飯島セントスルニ支
 那船ノ備ニ應スルモノナク陸上ヲ步行スルニ支那人等ハ前後
 左右ニ就キ来リ困難ヲ極メタルモ終ニ外国人居留地ヲラン
 スニ日本人アルヲ知リ右ヲ尋テ金森巳之吉及ヒ南條弥三郎ノ
 二人ニ會シ此ニ支那人ニシテ昨年中本島近辺ニ於テ沈没セシ
 汽船二艘ノ引上方ヲ受負ヒ徐々ニ着キシ漸ク物品ヲ拾ヒ上ケ
 海岸ニ到セバ島民ノ為メニ盗ミ去ラル、ニ因リ困難ヲ極メ居

ル者アルヲ聞キ若当人ニシテ上幕ヲ本島へ送届ケンニハ島廳
ニ願ヒ右拾ヒ上呂ヲ島民ノ盗ミ去ラサル様相当ノ保護ヲ為サ
シムバシトノ約束ヲ為シ漸ク坂島ヲ得タリト云フ
右ト同時ニ金森南條ノ二名モ本島ニ来レリ同人等ノ言ニ依レ
ハ厦門地方人民中等以上ノモノハ台湾ノ日本領トナリタルハ
致方ナキヲニテ他外國人ノ手ニ渡サンヨリ一層好カラシト云
ヒ居ルモ中以下ニアリテハ不滿ニ思ヒ居ルモノ、如ク又厦門
出帆ノ節ハ港内支那及外國軍艦一艘モ居ラサルモ防備ハ近時
大ニ嚴重ニシテ港ノ右方ニ新ニ砲台ヲ建築スルモノアリ又英
國砲艦毎週一回安平ヨリ入港シ因テ以テ台湾ノ模様ハ詳細承
知シ居ルモノ、如シ然レモ兵器彈藥等軍需品ヲ台湾ニ向ケ送
付セズト云フ
一右ノ外異状ナシ過日訓令ヲ拜受セシ南岬派遣ノ件其後天候不

良ノ為ノ見合セ居リタルモ昨今漸ク天候定リタルヲ以テ明十
六日午前六時出艦ノ密ニ有之候

一前記金森及ヒ南條二人共昨年関戦以前ヨリ厦門ニアリテ雜貨
商ヲ營ムモノニシテ南條ハ厦門視察長其外各處燈台番等ノ外
國人ヲ知り居リ支那言及英語ニ通シ居ル旨宮内島司ノ言ニ付
今回南岬行ニハ或ハ好都合ヲ得ル丁モアル可キニ付南條ヲ兼
艦セシメタリ

右報告矣也

明治二十八年八月十五日

澎湖嶋ニテ

秋津洲艦長上村彦之丞

常備艦隊司令長官有地品之允殿

八月十日 日誌抜萃

一前夜十二時過キ水雷管所ハ火薬庫へ盜賊忍ヒ入りタリ其概況
リ左ノ如シ

此火薬庫ニハ衛兵アリ哨兵アリ

此夜十二時過キ火薬庫箱抱ヘ大西門外ニ出ルモノアリ土塊ノ

上ニ立ケシ哨兵之ヲ詭ノ矢處ニ突火セシモ三人ニテ三發命中

突賊砲声ニ驚キ火薬ヲ捨テ逃走シタリ依テ火薬庫近傍ヲ搜索

スルニ賊ノ隻影ヲ見ヘサリシモ火薬庫ノ傍ニ十七箱(天砲火

薬小銃彈藥取交セト稍々遠ク向レタル処ニ二個ト持込シアリ

全ク持込シタル火薬ノ数ハ二十箱ニテ火薬庫ノ銃前ハ搦切リ

テ之レヲ外シタルモノナリ

此賊ハ以テ七十人以上二十人以下ノ所為ナラシカ恩フニ及タ

哨兵か面前ヲ通過スル者人ノ賊ヲ認メテ発火セシ砲声ニテ始
テ賊アルヲ知りタルモノニテ倉庫ノ錠ヲ捲切リ火薬ヲ盗ミ爰
セシ一ヲ衛兵等ハ少シモ覺ラサリシモノナラン又多人數ノ賊
ハ近傍ニ居リシニ相違ナキモ銃声ニ驚キ逃走シタルモノニテ
夫スラ衛兵ハ知ラサリシモノ、如シ

23
ス

1587